

小倉川

T O 生

八王子停車場から、新道なら三里、七國峠を越えて往けば二里半、久保澤の町の下に小倉の渡しといふ處がある。新道には乗合馬車(二十五錢)があるが、舊道も難儀な道ではなく、途中スケッチするによい處もある。

久保澤の町はだら／＼下りて、町の中央に蓋のしてある大きな澤があり、建物も一寸面白く、道路山水の好畫題である。

町の上は見通しのつかぬ程な廣い平原で、一面の桑畑、處々に林や森があつて、單調を破つてゐる。朝夕の雲を研究するには最もよい處である。

町から下ると二三の水車があり、川尻とよばるゝ可なりな瀧がある。やがて廣々とした小倉川の岸に出ると、爰には渡船があつて、對岸に渡し守の小屋一つ、清き水は緩く流れ、遙かに荷船の帆掛けたのも見える。兩岸の山は高く峻しく、凡ならざる風致を供えてゐる。

上流には大井、川和、中野などいふ處があつて、何れも多少の畫材を供えてゐる。殊に中野のあたりは、川幅狭く流れ急に、一層變化に富んでゐる。此上は桂川とよばれて、甲州より來るのである。

下流二里、田名といふ處は、絶壁高く峙ちて小赤壁の名ある勝地である。相摸川となり厚木を過ぎ、馬入川となり平塚に出て、須賀にて海に入るので、荷舟に上乘して下るも一興であらう。

川を渡り小倉村から上ると、根小屋、半原、田代などいふ處がある。半原は、宮ヶ瀬川村の中央を流れ、兩岸には無数の水車があつて、橋上からの眺は頗る奇觀である。半原から田代へ往く道の右手には、鹽川の瀧といふのがある。二段に落下して遠望もよく、近くの眺も又可なりである。

私は數年前十一月中旬に、二年も續けて此邊の寫生に出掛けた。小倉川兩岸の紅葉、其色の美しきは云ふ迄もなく、尤も妙なるは平原の桑の葉の眞黄色になるので、題る壯大な感がある。

前の月も久保澤附近の有志、金子、増田、神藤諸君に招かれて本曜會の人々と共に此邊の寫生に出掛けたが、夏の景色も中々悪くはなかつた。鮎狩にとて、上流城山の麓寶の峯といふ邊まで溯つたが、見上るやうな紫色の巨巖には、折から牡鵝花が盛りに咲いて深碧の水に映じ、實に何ともいへぬ美しさであつた。(當時の紀行は七月の中學世界卵杖八月の文藝俱樂部に出てゐる)

久保澤の宿屋は、車屋といふのがたゞ一軒あるのみ、宿料は洋服なら五十錢、其他は三十五錢との事である。